

教えてください、あなたのこと ②1

東京都武蔵野市 新垣 俊彦さん（クリーンむさしのを推進する会 会長）

つなげるつながる会員さん

Q 差し支えなければ、年齢、出身地を教えてください。

A 1940年7月11日生まれの74歳です。出身地は愛知県常滑市・焼き物の町です。

Q ごみ問題に関心を持つようになったのは…？

A 1971年、武蔵野市のごみが、共同処理をしていた三鷹市内の焼却場から搬入を阻止されました（*）。このことでごみ問題に関心を持つようになりました。（*周辺住民から悪臭・騒音・ばい煙などの苦情が寄せられ、市もそれに押されるかたちで共同処理が中止となった）

1979年には市議会が用地選定をめぐる紛糾する等、アウトサイドから少々関わりの持つようになりました。深く関わるようになったのは、2003年に会社勤めを卒業した時で、ご近所に「クリーンむさしのを推進する会」の役員をされている方がいらして、モーレツなアタックを受け地域役員を受けたことでしょう。

その後、比較的若いことと、会社勤めをしている時、組織作りを主たる仕事にしていたから、前会長の広江さんから要請されクリーンむさしのの役員になり、以後会員の皆さんが動きやすい組織作りを心掛けてきました。

Q 「ごみ・環境ビジョン21」に入会して下さったきっかけを教えてください。

A クリーンむさしのの会員の中には「ごみ・環境ビジョン21」で理事や監事、サポートをつとめる人が多いので、その方たちが動きやすいようにクリーンむさしのとして団体会員になりました。

「ごみ・環境ビジョン21」の良いところは、個別の問題も多摩全域の問題として同じテーブルで議論ができ、学ぶことができることです。武蔵野は比較的行政との関係は良好で、協働事業を追求しようとする姿勢があることです。そのためにも「ごみ・環境ビジョン21」で学び合いたいと思います。

Q ごみ問題に関ること以外に、趣味や生きがいは何ですか？

A 趣味はつるバラを中心にレイアウトした庭作りです。早晚、オープン・ガーデン風にしたいと思っています。土と親しみ、自然になじむ生活の場を作ることが生きがいかな。

Q 特筆すべき近況があれば、教えてください。

A お茶わんのリユース・リサイクルが協働事業として進む方向が出ており、幅広い市民の取り組みとして期待が持てます。

Q ごみかんに期待したいこと、あるいは提案したいことをお聞かせください。

A 先にふれたように多摩全域の問題として同じテーブルで議論できることを大切に、行政や事業者はもとより、市民のごみ排出責任をどのように取るか具体的な事例を学びたいと思っています。

